

2019年度 名古屋市立大学皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは名古屋市立大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、JA 三重厚生連三重北医療センターいなべ総合病院皮膚科、JA 愛知厚生連海南病院皮膚科、春日井市民病院皮膚科、蒲郡市民病院皮膚科、社会医療法人厚生会木沢記念病院皮膚科、JA 愛知厚生連江南厚生病院皮膚科、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター皮膚科、名古屋市立西部医療センター皮膚科、社会福祉法人聖霊会聖霊病院皮膚科、日本赤十字社名古屋第二赤十字病院皮膚科、独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院皮膚科、名古屋市立東部医療センター皮膚科、豊川市民病院皮膚科、独立行政法人国立病院機構東名古屋病院皮膚科を研修連携施設として、また、あいち小児保健医療総合センター皮膚科、JA 愛知厚生連足助病院皮膚科、JA 愛知厚生連稲沢厚生病院皮膚科、岡崎市民病院皮膚科、JA 三重厚生連三重北医療センター菰野病院皮膚科、社会医療法人志聖会総合犬山中央病院皮膚科、医療法人医仁会さくら総合病院皮膚疾患センター、JA 愛知厚生連知多厚生病院皮膚科、社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院皮膚科、医療法人純正会名古屋市立緑市民病院皮膚科を研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

C. 研修体制：

研修基幹施設：名古屋市立大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：森田 明理（診療科部長）

専門領域：アレルギー性皮膚疾患、光線治療、膠原病、自己免疫疾患（水疱症を含む）、乾癬（膿疱性・乾癬性関節炎を含む）、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、円形脱毛症、難治性皮膚疾患、小児皮膚科

指導医：山崎 小百合 専門領域：皮膚科一般、免疫疾患、皮膚免疫学

指導医：西田 絵美 専門領域：乾癬、掌蹠膿疱症、皮膚リンパ腫、光線治療

指導医：加藤 裕史 専門領域：皮膚外科、皮膚悪性腫瘍、皮膚感染症、皮膚潰瘍、静脈瘤、創傷

指導医：齊藤 稚代 専門領域：皮膚科一般、乾癬、光線療法

指導医：佐川 容子 専門領域：皮膚科一般

指導医：中村 元樹 専門領域：皮膚外科、皮膚悪性腫瘍、皮膚良性腫瘍、尋常性白斑、糖尿病性足潰瘍、褥瘡

指導医：堀尾 愛 専門領域：皮膚科一般

指導医：高木 佐千代 専門領域：皮膚科一般

指導医：中村 令子 専門領域：皮膚科一般

施設特徴：皮膚科としては、全国でも有数の病床数（23床）を持つ。皮膚疾患に対する光線治療では国内でも代表的な医療機関である。診療の幅は非常に広く、乾癬をはじめ、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、白斑等の難治性疾患から、手術を必要とする皮膚悪性腫瘍、難治性潰瘍など、県内外から多くの患者が来院する。また褥瘡回診や、膠原病内科との連携による膠原病・リウマチ性疾患などの診療等、豊富な経験を積むことが可能である。皮膚科疾患に関わることはすべて対応できる体制を整備している。

研修連携施設：JA 三重厚生連三重北医療センターいなべ総合病院皮膚科

所在地：三重県いなべ市北勢町阿下喜 771

プログラム連携施設担当者（指導医）：千葉 高司（診療科部長）

研修連携施設：JA 愛知厚生連海南病院皮膚科

所在地：愛知県弥富市前ヶ須町南本田 396

プログラム連携施設担当者(指導医):渡辺 正一(診療科代表部長)

研修連携施設：春日井市民病院皮膚科

所在地：愛知県春日井市鷹来町 1-1-1

プログラム連携施設担当者(指導医)：古橋 卓也(医長)

研修連携施設：蒲郡市民病院皮膚科

所在地：愛知県蒲郡市平田町向田 1-1

プログラム連携施設担当者(指導医)：久保 良二(医長)

研修連携施設：社会医療法人厚生会木沢記念病院皮膚科

所在地：岐阜県美濃加茂市古井町下古井 590

プログラム連携施設担当者(指導医)：神谷 秀喜(部長)

指導医：北島 康雄

研修連携施設：JA 愛知厚生連江南厚生病院皮膚科

所在地：愛知県江南市高屋町大松原 137 番地

プログラム連携施設担当者(指導医)：村松 伸之介(医長)

研修連携施設：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター皮膚科

所在地：愛知県大府市森岡町 7-430

プログラム連携施設担当者(指導医)：磯貝 善蔵(医長(特命部長))

研修連携施設：名古屋市立西部医療センター皮膚科

所在地：愛知県名古屋市北区平手町 1-1-1

プログラム連携施設担当者(指導医)：澤田 啓生(診療科部長)

研修連携施設：社会福祉法人聖霊会 聖霊病院皮膚科

所在地：愛知県名古屋市昭和区川名山町 56

プログラム連携施設担当者(指導医)：春原 晶代(副院長・診療科部長)

研修連携施設：日本赤十字社 名古屋第二赤十字病院皮膚科

所在地：愛知県名古屋市昭和区妙見町 2-9

プログラム連携施設担当者(指導医)：榊原 代幸(診療科部長)

指導医：伊藤 えりか

研修連携施設：独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院皮膚科

所在地：愛知県名古屋市南区三条 1-1-10

プログラム連携施設担当者(指導医)：小寺 雅也(診療科部長)

指導医：伊藤 有美、稲坂 優

研修連携施設：名古屋市立東部医療センター皮膚科

所在地：愛知県名古屋市千種区若水 1-2-23

プログラム連携施設担当者(指導医)：苅谷 清徳(診療科部長)

研修連携施設：豊川市民病院皮膚科

所在地：愛知県豊川市八幡町野路 23

プログラム連携施設担当者(指導医)：西尾 栄一(診療科部長)

研修連携施設：独立行政法人国立病院機構東名古屋病院皮膚科

所在地：愛知県名古屋市名東区梅森坂 5-101

プログラム連携施設担当者(指導医)：加藤 愛(医員)

研修準連携施設：あいち小児保健医療総合センター皮膚科

所在地：愛知県大府市森岡町 7-426

研修準連携施設：JA 愛知厚生連足助病院皮膚科

所在地：愛知県豊田市岩神町仲田 20

研修準連携施設：JA 愛知厚生連稲沢厚生病院

所在地：愛知県稲沢市祖父江町本甲拾町野 7

研修準連携施設：岡崎市民病院皮膚科

所在地：愛知県岡崎市高隆寺町字五所合3番地1

研修準連携施設：JA 三重厚生連三重北医療センター菰野病院皮膚科

所在地：三重県三重郡菰野町福村75

研修準連携施設：社会医療法人志聖会 総合犬山中央病院皮膚科

所在地：愛知県犬山市大字五郎丸字二夕子塚6

研修準連携施設：医療法人医仁会さくら総合病院皮膚疾患センター

所在地：愛知県丹羽郡大口町新宮1-129

研修準連携施設：JA 愛知厚生連知多厚生病院皮膚科

所在地：愛知県知多郡美浜町大字河和字西谷81-6

研修準連携施設：社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院皮膚科

所在地：岐阜県羽島郡笠松町田代185-1

研修連携施設：医療法人純正会 名古屋市立緑市民病院皮膚科

所在地：愛知県名古屋市緑区潮見が丘1-77

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

委員長：森田 明理（名古屋市立大学病院皮膚科部長・教授）

- 委員：加藤 裕史（名古屋市立大学病院皮膚科副部長・講師）
 ：西田 絵美（名古屋市立大学病院皮膚科講師）
 ：苅谷 清徳（名古屋市立東部医療センター皮膚科部長）
 ：大島 理恵子（総合犬山中央病院皮膚科医長）
 ：加藤 愛（東名古屋病院皮膚科医員）
 ：榊原 代幸（名古屋第二赤十字病院皮膚科部長）
 ：澤田 啓生（名古屋市立西部医療センター皮膚科部長）
 ：春原 晶代（聖霊病院皮膚科部長）
 ：千葉 高司（いなべ総合病院皮膚科診療科長）
 ：磯貝 善蔵（国立長寿医療研究センター皮膚科医長）
 ：西尾 栄一（豊川市民病院皮膚科部長）
 ：古橋 卓也（春日井市民病院皮膚科医長）
 ：渡辺 正一（海南病院皮膚科部長）
 ：久保 良二（蒲郡市民病院皮膚科医長）
 ：村松 伸之介（江南厚生病院皮膚科医長）
 ：中尾 敦子（名古屋市立大学病院 12 階南病棟看護師長）

前年度診療実績：

	皮膚科		局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年 間手術数	指導医数
	1 日平均外 来患者数	1 日平均入 院患者数			
名古屋市立大学病院	155.0 人	24.6 人	604 件	50 件	10 人
いなべ総合病院	51.0 人	3.0 人	237 件	0 件	1 人
海南病院	47.1 人	3.7 人	296 件	13 件	1 人
春日井市民病院	74.5 人	8.2 人	873 件	1 件	1 人
蒲郡市民病院	30.5 人	6.5 人	141 件	2 件	1 人
国立長寿医療研 究センター	23.3 人	4.9 人	75 件	7 件	1 人
木沢記念病院	71.8 人	8.0 人	1120 件	33 件	2 人
江南厚生病院	44.0 人	1.0 人	210 件	0 件	1 人
西部医療センター	58.3 人	0.8 人	336 件	0 件	1 人

聖霊病院	43.61 人	4.08 人	279 件	1 件	1 人
第二赤十字病院	57.5 人	2.3 人	453 件	1 件	2 人
中京病院	111.0 人	19.5 人	773 件	37 件	2 人
東部医療センター	41.2 人	2.5 人	376 件	1 件	1 人
豊川市民病院	62.0 人	3.0 人	813 件	3 件	1 人
東名古屋病院	20.2 人	0.6 人	52 件	0 件	1 人
合計	891.01 人	92.68 人	6638 件	149 件	27 人

D. 募集定員：6 人

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，筆記試験、小論文および面接により決定（名古屋市立大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を名古屋市立大学医学部皮膚科のホームページよりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の 3 月 31 日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年 4 月 30 日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

プログラムに関する問い合わせ、見学を随時受け付けております（ただし、見学については、10 月～2 月までは実施しません）。

名古屋市立大学病院皮膚科

西田 絵美

TEL：052-853-8261

FAX：052-852-5449

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュ

ラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 名古屋市立大学病院皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、手術を必要とする皮膚腫瘍（良性・悪性）、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。
2. JA 愛知厚生連海南病院皮膚科、春日井市民病院皮膚科、社会医療法人厚生会木沢記念病院皮膚科、JA 愛知厚生連江南厚生病院皮膚科、名古屋市立西部医療センター皮膚科、日本赤十字社名古屋第二赤十字病院皮膚科、独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院皮膚科、名古屋市立東部医療センター皮膚科、豊川市民病院では、外来・病棟を含めた急性期疾患、稀少・難治性疾患、一般皮膚科診療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、いずれも500床を超える病院での他科との連携や他領域にまたがる疾患のマネジメントを研修する。皮膚悪性腫瘍に対する手術療法、化学療法、終末期医療を習得する。

さらに、蒲郡市民病院皮膚科、JA 三重厚生連三重北医療センターいなべ総合病院皮膚科、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター皮膚科、社会福祉法人聖霊会聖霊病院皮膚科、独立行政法人国立病院機構東名古屋病院では、地域医療の実践、病診連携を習得し、名古屋市立大学病院皮膚科の研修を補完する。

主にこれらの連携研修施設のいずれかで、少なくとも1年間の研修を行う。

3. 準連携施設であるあいち小児保健医療総合センター皮膚科、JA 愛知厚生連足助病院皮膚科、JA 愛知厚生連稲沢厚生病院皮膚科、岡崎市民病院皮膚科、JA 三重厚生連三重北医療センター菰野病院皮膚科、社会医療法人志聖会総合犬山中央病院皮膚科、医療法人医仁会さくら総合病院皮膚疾患センター、JA 愛知厚生連知多厚生病院皮膚科、社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院皮膚科、医療法人純正会名古屋市立緑市民病院皮膚科で

は、皮膚科一般診療の外来診療研修を行う。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	連携	連携	連携	基幹
b	基幹	連携	連携	基幹	基幹
c	連携	基幹	連携	連携	連携
d	基幹	がんセンター等	形成外科	連携	基幹
e	基幹	連携	連携	大学院 (臨床)	大学院 (研究)
f	連携	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)	大学院 (研究)	大学院 (研究)

a～b：研修基幹病院（名古屋市立大学皮膚科）を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で専攻医の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として2年間で異動する。ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。

c：基幹型研修病院である他院で研修（連携病院）を行い、研修2年目から名古屋市立大学皮膚科（基幹病院）で研修を開始。その後、連携施設で研修。

d：皮膚外科コース：基幹型研修病院で1年間しっかり研修を行い、がんセンター等での悪性腫瘍、さらに形成外科で手術手技の研修を行い、さらに連携施設で研修を行った後、基幹型研修病院で研修を行うコース。

- e：基幹型研修病院1年、連携病院2年後、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。
- f：専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。5年間持続する必要がある。あわせて、2年目、3年目は、臨床研修を行い、カリキュラム修了要件を満たす。なお、連携施設では1年以上の研修を行う。

いずれのコースでも、希望があれば、

- ・日本アレルギー学会 アレルギー専門医
- ・日本リウマチ学会 リウマチ専門医
- ・日本感染症学会 感染症専門医
- ・日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
- ・がん治療認定医機構 がん治療認定医
- ・日本皮膚科学会 皮膚悪性腫瘍指導専門医
- ・日本皮膚科学会 美容皮膚科・レーザー指導専門医

が、取得が可能なような研修を考慮する。

2. 研修方法

1) 名古屋市立大学医学部皮膚科

外来：外来診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと2チーム（A・Bチーム：詳細は名古屋市立大学病院皮膚科ホームページ参照）の診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

年4回の名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会に参加し症例検討などを行う。また、リサーチセミナーの開催、臨床に関するセミナーを多数行い、診療レベルの向上につなげる様にしている。抄読会では1回/週 英文論文を紹介することを行っている。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加できるような体制である。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	7:50～ 回診 病棟	外来	病棟	外来		
午後	12:00～ 手術	14:00～ 褥瘡回診 病棟 17:00～ 手術カンファレンス 18:00～ 膠原病カンファレ ンス(第1火曜のみ)	13:30～ 光線外来 17:00～ 臨床カンファレンス 17:30～ 病理カンファレンス	14:00～ フットケア外来 17:30～ 抄読会 18:30～ シニレジセミナー (2, 4 週目) 病理勉強会 (1, 3 週目)	12:00～ 手術		

* 外来：適宜指導医のシュライバーにつく

* 入院患者：診療チームで受け持つすべての入院患者に主治医として併記

* 木曜勉強会：第1、3週目：病理勉強会

第2、4週目：治療のコツレクチャー

2) 連携施設

JA 三重厚生連三重北医療センターいなべ総合病院皮膚科：

指導医の下で、地域医療の中核病院として皮膚科診療に従事する。一般的な診療・処置・手術・救急医療がしっかり行えるように研修を行っている。必須の講習会を受講して、適宜学会発表を行う。学会・セミナー・勉強会に積極的に参加する。年4回の名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会に参加し、症例検討などを行う。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前 (指導医)	外来 (千葉)	外来 (千葉)	外来 (千葉)	外来 (千葉)	外来 (千葉)		
午後 (指導医)	14時～ 外来 (千葉) 褥瘡回診	14時～ 手術 検査 (千葉) 宿直	14時～ 手術 検査 (千葉)	14時～ 外来 (千葉) 組織検討会	14時～ 手術 (千葉)	宿直	

宿直は2回/月を予定

- ・月、火、水、木、金と外来5診で一般診療を行い、適宜指導医のシュライバーにつく。
- ・組織検討会（隔週） 16時からカンファレンスルーム
- ・入院患者 すべての入院患者に主治医と併記

JA 愛知厚生連海南病院皮膚科：

指導医と協力し、地域中核病院勤務医として、標準的な皮膚科一般医療、救急医療、処置、手術の習得を目指し、地域完結型医療ができることを目標とする。年2回以上筆頭演者として学会発表を行い、その発表をまとめ論文を作成する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーには積極的に参加する。年4回の名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会に参加して、症例検討などを行う。病院が実施する院内必須セミナーと医療安全講習会には定期的に参加する。

午後 (指導医)	14 時～ 手術 光線治療 病棟業務 (古橋)	14 時～ 手術 病棟業務 (古橋)	14 時～ 手術 病棟業務 (古橋)	14 時～ 病棟業務 (古橋)	14 時～ 手術 病棟業務 (古橋)		
16 時				病理カンファレンス 手術カンファレンス			

*月～金：外来 2 診体制で一般診療を行う。

*入院患者：すべての入院患者に主治医として併記

蒲郡市民病院皮膚科：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，皮膚科外来，病棟，処置，一般皮膚科医が必要とする手術法につき習得する。また急性期病院の一端を担う医師として救急医療の診療も行う。指導医とともに毎週臨床カンファレンス，病理カンファレンス，および手術カンファレンスを行い，指導医と情報を共有し，常に知識，技術を習得していけるような体制にしていく。名古屋市立大学病院皮膚科カンファレンスにも適宜出席できるようにする。また年に 4 回行われている名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会にも参加し、症例検討などを行う。皮膚科学会主催の講習会受講，年に 2 回を目標に筆頭演者としての学会発表，皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーへの参加，論文作成のサポートなども行っていく。当院で行われる必須の講習会は必ず出席するとともに，その他院内講習会への積極的な参加や，院内委員会活動も行い，勤務医師としての院内での役割を理解，実行できるようにしていく。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前 (指導医)	外来 (久保)	外来 (久保)	外来 (久保)	外来 (久保)	外来 (久保)		
午後	病棟 15 時～ 手術	病棟 14 時～ 褥瘡回診	病棟	病棟 15 時～ 手術	病棟		

夕方 16時～				臨床・病理 カンファレンス	手術 カンファレンス	宿直*	
------------	--	--	--	------------------	---------------	-----	--

※宿直は3～4回／月を予定

*午前は毎日外来診察を、指導医の指導を受けながら行う。

*豊川市民病院皮膚科との合同カンファレンス（臨床・病理）を月1回のペースで行う。

*皮膚科の入院患者はすべて主治医として指導医とともに診療する。

社会医療法人厚生会木沢記念病院皮膚科・皮膚がんセンター：

皮膚悪性腫瘍患者の手術治療、化学療法、緩和医療を中心に習得する。合わせて皮膚外科一般およびあざに対するレーザー治療にも携わる。がんセンターを標榜しているが、一般的な皮膚疾患への対応も充実させている。特に自己免疫疾患、アレルギー疾患、物理化学的障害等幅広く診療を行う。

皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年2回以上筆頭演者として学会発表を行う（地方会／支部総会）。さらに病院が実施する院内必須セミナーと医療安全講習会にも定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前 (指導医)	外来 (神谷)	外来 (北島)	外来 (神谷)	外来 (奥村)	外来 (岡田)	外来 (交代制)	
午後 (指導医)	14時～ 外来手術・生検 レーザー外来 (神谷) 病棟診察処置	10時～ 中手手術 (主治医) 15時～ 外来 (北島)	14時～ 外来手術・生検 レーザー外来 (神谷)	14時～ 特診外来 (北島) 病棟診察 (佐竹)	14時～ 外来検査 病棟診察 (佐竹)		
16時		抄読会	Mini lecture	組織検討会			

#日当直は1～2回／月(外科系当直)

*月、水、木、金と外来4診で一般診療を行い、適宜指導医のシュライバーにつく

*組織検討会（隔週）：15時～病理研修室（病理医との合同カンファレンス）

*入院患者：すべての入院患者に主治医として併記

*抄読会：月1回火曜日夕方16時過ぎより

JA 愛知厚生連江南厚生病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として皮膚科診療に従事しながら、皮膚科一般医療・処置・検査・手術法の習得を目指す。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年2回以上筆頭演者として学会発表を行う（地方会／支部総会）。その他皮膚科関連の学会・学術講演会・セミナーに積極的に参加する。年4回の名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会に参加し、症例検討などを行う。また、病院が実施する院内必須セミナーと医療安全講習会にも定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前 (指導医)	外来 (村松)	外来 (村松)	外来 (村松)	外来 (村松)	外来 (村松)	外来 (第1,3週)	
午後 (指導医)	14時～ 外来手術 病棟 (村松)	14時～ 褥瘡回診 病棟 (村松)	14時～ 中手手術 病棟 (村松)	14時～ 外来手術 病棟 (村松)	14時～ 外来手術 病棟 (村松)		
16時					カンファ レンス		

宿直は3回/月を予定（外科系当直）

*外来：2診体制で一般診療を行う。適宜指導医のシュライバーにつく

*入院患者：すべての入院患者に主治医として併記

*毎週金曜日16時から臨床・病理・手術カンファレンスを行う。

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター皮膚科：

高齢者の皮膚科医療に関して、高齢者医療と皮膚科学をミックスさせた診療をしている。特に高齢者の感染症などの救急疾患も多く、また認知症やその他の合併症を持つ高齢者皮膚疾患診療についても多く経験できる。

また年4回の名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会に参加し、症例検討などを行う。さらに病院が実施する院内必須セミナーと医療安全講習会にも定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前 8時 30分 から	皮膚科外来	皮膚科オン コール 病棟回診	病棟往診 全科救急 当番 (4週に1 回) 皮膚科オン コール	手術助手	皮膚科オン コール	病棟回診 (隔週) 内科当直 (8~10週 に1回)	病棟回診 (隔週) 内科当直 (8~10週 に1回)
午後	病棟回診 病棟往診	褥瘡回診 皮膚科オン コール	全科救急 当番 皮膚科オン コール	皮膚科外来 もしくは 手術助手 病棟回診	病棟回診 皮膚科オン コール	内科当直 (8~10週 に1回)	内科当直 (8~10週 に1回)

* 症例検討会 (隔週) : 皮膚科外来

* 入院患者 : 経験などに応じて、主治医または担当医として診療

* 抄読会 : 月1回

名古屋市立西部医療センター皮膚科：

指導医の下、地域の中核病院の勤務医として、一般外来、救急医療、処置、手術法を習得する。名古屋市立大学病院皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。日本皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年2回以上筆頭演者として学会発表を行う (地方会/支部総会)。年4回の名古屋市立大

学皮膚科関連病院研究会に参加し、症例検討などを行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 14時～ 外来手術	病棟 14時～ 専門外来 14時～ 外来手術	病棟 14時～ 外来手術 16時～ 臨床・病理 カンファレンス	病棟 14時～ 外来手術	病棟 14時～ 手術 (1, 3, 5 週 は中央手 術室)	宿直*	

*宿直は1回／月程度を予定

*午前中は外来2診での一般診療を行う。

*第2、4月曜は15時から褥瘡回診

*入院患者：すべての入院患者に主治医として併記

社会福祉法人聖霊会 聖霊病院皮膚科：

指導医の下、地域医療を担う病院の勤務医として、救急医療、処置、手術法を習得する。皮膚科臨床・組織カンファレンスと抄読会に月に1回参加し、自己の診断能力、治療技術を確認し、指導医のフィードバックを受ける。名古屋市立大学病院皮膚科のカンファレンス、抄読会に月に1-2回参加し学習する。年4回の名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会に参加し症例検討などを行う。皮膚科学会主催の必須講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院

が実施する医療安全講習会、感染対策講習会、医療倫理講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	外来	外来	外来	
午後	14:00～ 外来	13:30～ 手術	14:00～ 第2、4は 外来	13:30～ 手術	病棟		
16:00～	病棟	病棟	13:30～ 褥瘡カンファ レンス	病棟			
		第4:抄読 会		第2:臨 床・組織 検討会			

月に2回程度の当直

月、水、木、金、土と外来2診で一般診療を行い、適宜指導医のシュライバーにつく

*臨床・組織検討会（毎月第2木曜）：16時～皮膚科外来

*入院患者：すべての入院患者に主治医として併記

*抄読会：月1回火曜日夕方16時過ぎより

日本赤十字社 名古屋第二赤十字病院皮膚科：

指導医の下、地域医療、救急病院の勤務医として第一線の救急医療、外来診療、検査、処置、手術法を習得する。皮膚科学会主催の講習会を受講し、学会での発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに参加する。年4回の名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会に参加し、症例検討などを行う。

病院の実施する医療安全講習会に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前 (指導医)	外来 (榊原)	外来 (榊原)	外来 (榊原)	外来 (榊原)	外来 (榊原)		
午後	病棟 14時～ 検査・手術	病棟 14時～ 検査・手術	病棟 14時～ 手術	病棟 14時～ 手術 16時～ カンファレンス (病棟・病理・手術カンファ)	病棟 14時～ 検査・手術		

*月、火、水、木、金で午前中は一般診療を行い、適宜指導医のシュライバーにつく

*入院患者：すべての入院患者に主治医として併記

独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院皮膚科：

愛知県内でも有数の22病床数をもつ。年間の皮膚科入院患者数は約700例で、膠原病精査と治療、皮膚良性・悪性腫瘍手術と化学療法、アトピー性皮膚炎、乾癬の教育入院をはじめとして、重症薬疹、帯状疱疹、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎など緊急性疾患にも対応。膠原病症例は約800例で、シェーグレン症候群、SLE、強皮症、皮膚筋炎、混合性結合組織病、関節リウマチ、ベーチェット病、サルコイドーシス、成人スティル病の症例も多数。また、皮膚外科の年間手術例は約750例で再発防止と整容面の両者を考慮した手術を積極的に施行。皮膚悪性腫瘍は手術治療(90～100例/年)を第一選択とし、化学療法を組み合わせた集学的治療を行っている。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術	外来	手術	病棟	外来	病棟	

	病棟						
午後	病棟 回診	外来 入院カンファ レンス	病棟 病理カンファ レンス	手術 外来カンファ レンス	病棟 回診		

名古屋市立東部医療センター皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を取得する。適宜・随時開催のカンファレンスに参加し学習する。

皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年2回以上筆頭演者として学会発表を行う。年4回の名古屋市立大学皮膚科関連研究会に参加し症例検討などを行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟		
午後	14時～ 手術 検査	14時～ 手術 検査	14時～ 手術 検査 カンファレンス	14時～ 手術 検査	14時～ 手術 検査		

*外来：適宜指導医のシュライバーにつく

*病理カンファレンス、手術カンファレンス：水曜午後に限らず、必要時には適宜開催

豊川市民病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として市中病院での皮膚科診療、処置、手術、検査などの他、第一線の救急医療についても研修する。皮膚科学会

主催の必須の講習会を受講し、年に1回以上の筆頭演者としての学会発表の他、論文の投稿も積極的に行う。年4回の名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会に参加し、症例検討などを行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 14時30分 外来手術	病棟 14時30分 褥瘡外来・ 回診	病棟 14時 手術(手術室) 17時 カンファレンス (臨床・病理)	病棟 14時30分 外来手術 16時30分 カンファレンス (褥瘡・手術)	病棟 13時30分 フットケア外来		

宿直・休日日直（外科系・ICU）：月2回程度

休日：病棟診療・処置（必要時）

休日・夜間：救急対応（必要時）

*月一金の毎日外来7診で一般診療を行い、適宜指導医のシュライバーにつく

*入院患者：すべての入院患者に主治医として併記

*カンファレンス：毎週火曜、水曜17時より(内容は予定表通り、病理については随時病理医との検討が可能)

独立行政法人国立病院機構東名古屋病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、広く皮膚科全般の診療に従事し、診断、処置、手術法を習得する。また、結核病床、神経難病病床、重症心身障害者病床を有する病院の特性を生かし、長期療養患者における難治性・慢性皮膚疾患の管理を習得する。必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行う。年4回の名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会に参加し、症例検討などを行う。皮膚科関連の学会、学術講習会、セミナーに積極

的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。院内の褥瘡勉強会、地域医師会を対象とした勉強会を主催する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	病棟	外来		
午後	13:30～ 病棟 14:00～ 手術	13:30～ 病棟 14:00～ 手術 13:30～ 褥瘡回診 (第二火曜)	13:30～ 病棟 14:00～ 手術 16:00～ 病理カンファ レンス	14:00～ 手術	13:30～ 病棟 14:00～ 手術	宿直 ※	

※ 宿直は2回/月を予定 (全科当直)

* 月、火、水、金と外来2診で一般診療を行い、適宜指導医の指導を仰ぐ

* 入院患者：すべての入院患者に主治医として併記

* 組織検討会 (隔週)：16:00～ 皮膚科外来

* 褥瘡回診 (月1回第二火曜日)：13:30～

* 褥瘡勉強会 (院内全職員が対象) で講師を務める：年3回不定期開催

* 名東区医師会講演会 (地域の開業医が対象) で講師を務める：年1回

* 名古屋市立大学皮膚科関連病院研究会：年4回不定期開催

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修準連携施設

あいち小児保健医療総合センター皮膚科、JA 愛知厚生連足助病院皮膚科、JA 愛知厚生連稲沢厚生病院皮膚科、岡崎市民病院皮膚科、JA 三重厚生連三重北医療センター菰野病院皮膚科、社会医療法人志聖会総合犬山中央病院皮膚科、医療法人医仁会さくら総合病院皮膚疾患センター、JA 愛知厚生連知多厚生病院皮膚科、社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院皮膚科、医療法人純正会名古屋市立緑市民病院皮膚科では現在指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため、基幹病院研修中に外来診療研修をおこなうためと専門研修の後半に1年間に限り、1人での診療を行うことがある。また、名古屋市立大学病院皮膚科に患者紹介や診療相談、カンファレンス出席を行うことにより、病診連携を習得する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 1, 2年目：主に名古屋市立大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標，個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し，経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
 - 3年目：経験目標を概ね修了し，皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
 - 4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し，学習目標として定められている難治性疾患，稀な疾患など，より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識，技術をさらに深化・確実なものとし，生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、東海地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修の記録」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。
2. 「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。

5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特に p.15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は適時、指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 毎年、総括的評価を行い、診療レベルについて研修の進捗状況を詳細に確認し、翌年の研修目標を定める。
5. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
6. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
7. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれ

ない。

2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

○. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照，あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね3～4回/月程度である。

2018年4月25日

名古屋市立大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
森田 明理